

羅 針 盤			方 策		第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	コースの特色を生かし、生徒の興味・適性にあった授業を工夫する。また、生徒が興味・関心をもって取り組める教育課程を検討する。		B	生徒C 保護者B	生徒の声に耳を傾けられる時間(二者面談)やアンケートの結果を生かし、学校に興味・関心をもつ対応を行う。	B	生徒B 保護者B	様々な体験学習を取り入れたことやコースの特色を活かすことで達成感を得られるような指導ができた。今後も維持する。
		② 習熟度別や少人数制の授業形態に満足している生徒が80%以上である。	学習内容の効果的な定着を図れる授業の展開と学習に集中できる環境づくりを行う。		B	生徒B 保護者A	より満足する学習環境づくりを各教科担当が実践し、生徒の充実度を高める。	B	生徒B 保護者A	授業形態や学習方法・環境維持に今後も努め、生徒の実態にあった指導を推進する。
	2 地域と連携し、地域の教育力を活用していますか。	③ 「総合的な学習の時間」や「課題研究」、学年行事等に地域に密着した学習を取り入れ、その学習等に意欲的に取り組んだ生徒が70%以上である。	「総合的な学習の時間」「課題研究」、学年別体験学習・講演会等の機会に地域の方を講師として交流を図るとともに、地域に対する視野を広げる活動を推進する。		A	生徒A 保護者A	結果に満足せず、今後より充実した内容(地域との連携を強化)になるよう、委員会を中心に対応する。	A	生徒A 保護者A	地域に必要とされる学校づくりを理念に改善を図り、地域の持つ財産を活用できるようにする。
		④ 地域とふれあい、連携した事業を行い、諸活動に意欲的した生徒が70%以上である。	地域の団体・施設等と連携し、「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」をさらに積極的に推進する。		B	生徒B 保護者C	生徒が活動できる場を設定すること。希望者だけでなく、全員がかかわれる行事を検討する。	B	生徒B 保護者B	事業成果としては、大変すばらしい状況となったので、今後も維持できるようにする。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 「学び直し学習」や「学び合い学習」を取り入れた授業がわかりやすいと考えている生徒が80%以上である。	教員相互の授業参観や研修を重ね、授業改善に努める。また、生徒の学習状況を見とり、情報の共有化を図る。		B	生徒B 保護者B	考查問題の結果や評価を参考に授業改善に活かす。また、授業アンケートの結果を活用し、授業改善に努める。	B	生徒B 保護者B	次期学習指導要領の改訂に向け、現行の対応を活かしつつ、移行できるように検討を継続する。
		⑥ 多様な進路に対応した学習が役立っていると評価している生徒が70%以上である。	学習習慣の確立や資格取得の重要性を保護者にも理解してもらい、補習等への参加や受験を促す。		B	生徒B 保護者B	資格取得に向けて、今まで以上にコース全体で取り組むことを検討し、実施する。	B	生徒B 保護者C	進学希望・就職希望と様々な進路希望に対し、個別の対応をさらに進める。
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 授業に真面目に取り組んでいると自己評価している生徒が80%以上である。	グループ学習や協働学習といった要素を取り入れ、双方向型の授業を実践する。		B	生徒B 保護者B	授業規律の確保に努めるとともに、生徒が主体的に学習できる環境づくりを維持していく。	B	生徒A 保護者C	引き続き授業規律の確保に努めながら、生徒の実態にあった授業改善に努める。
		⑧ 学力の定着を図る指導を充実させ、学力が向上したと自己評価している生徒が70%以上である。	授業の中で基礎的内容を反復学習させたり、生徒の理解度を向上させる工夫を試みる。		B	生徒B 保護者A	教科内だけでなく他教科との横断的な学習への取り組みを工夫し指導計画の見直しを検討していく。	B	生徒B 保護者B	引き続き教科・学年が連携し、個々の生徒に必要な支援を行う。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨ 生徒とのコミュニケーションを図り、学校生活等の実態を把握するため、年3回以上の面談指導を行い、面談が役立ったと感じている生徒が70%以上である。	学期に1回担任との面談週間、週に1回スクールカウンセラーによる面談日を設け、生徒の変化に即応した相談・支援体制を整える。		B	生徒C 保護者B	面談週間に限らず、授業・清掃・行事等での教師からの声掛けを実施するとともに、スクールカウンセラーとも連携を図り、生徒の不安解消に努めていく。	B	生徒C 保護者B	全職員が不安をかかえる生徒への対応に努める。さらに、情報の共有化を図り、スクールカウンセラーや外部機関との連携も深めていく。
		⑩ 部活動に加入し、継続的に活動している生徒が50%以上である。	連帯感・帰属意識を持たせるとともに、部活動の意義を周知させ、積極的な入部を勧める。		B	生徒B 保護者B	設置部活の精選、活動内容の充実などを図り、生徒の充実感が得られるような部活動づくりに励む。	B	生徒A 保護者C	設置する部活動を精選し、活動内容の充実を図ることで、生徒の充実感が得られる部活動づくりを継続して行う。
		⑪ スマホの使い方や交通安全、健康に関する講話等が役立ったと評価する生徒が70%以上である。	生徒の実態にあった講話内容を実施し、生徒が自分自身の事として考えられるようにする。		B	生徒B 保護者A	事故予測や病気の症例など実生活で身近な具体例を盛り込んだ講演会を実施した。今後も、生活に生かせる内容を工夫していきたい。	B	生徒B 保護者B	学校保健委員会は生徒の活動が良好で成果も素晴らしく継続発展したい。各種安全教育は、各種機関との連携を密にしたい。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫ 生徒の欠席・遅刻を減らし、欠席率5%以下、遅刻率は3%以下である。	家庭との連絡を密にし協力を求め、無断遅刻者には作文指導を実施する。		B	生徒A 保護者A	遅刻については大幅な改善がみられているので、今後も指導を継続していく。学校へ来ることの意義を見だせるような魅力ある学校づくりに努めていく。	B	生徒B 保護者A	遅刻指導は継続して行っていく。長欠者には密な連絡、家庭訪問などを行い、保護者との連携を強めていく。また、外部機関との連携も随時図っていく。
		⑬ 本校で定めた服装・頭髪に関するルールを遵守していると考えている生徒が70%以上である。	毎日の挨拶運動時の声かけ指導を継続して実施する。さらに定期的な服装・頭髪指導を行い、普段の学校生活における改善の徹底を図る。		A	生徒A 保護者A	多くの生徒が校内ルールを遵守して学校生活を送れている。今後、進路との関連をより強く意識付け、生徒自らが自主的に規範意識を向上できるようにしていく。	A	生徒A 保護者A	一定の成果は認められるが、今後も、服装・頭髪指導の充実、授業規律の徹底、日頃の声掛けなどを根気強く行い、生徒の規範意識向上に努める。
		⑭ 仲間を受容し、いじめを絶対許さない雰囲気づくりに努め、学校はいじめの防止や早期発見に向けて積極的に取り組んでいると自己評価している生徒が85%以上である。	生徒会生徒を中心に、登校時の「あいさつ運動」を週1回以上実施する。また、いじめフォーラムなどの内容報告、呼びかけを随時行っていく。		B	生徒C 保護者A	アンケートや面談の機会に限らず、生徒からの申し出や情報に対して今後も迅速に対応していく。また、職員間の情報共有をより密にして、生徒が安心して登校できる雰囲気作りを前向きに取り組んでいく。	B	生徒C 保護者A	アンケートや面談等による情報集約の徹底を行い、職員間の情報共有をより密に行うことで、早期発見・早期解決に努めていく。また、生徒が主体となっていじめ防止に取り組む活動を増やし、いじめを許さない心を育てていく。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	⑮ 進路ファイルを活用した取組に意欲的な生徒が70%以上である。	進路ファイルを使用したノートを使い、進路学習の記録を保管・再活用させることにより、生徒の進路意識を高め、将来の進路選択に役立たせる。		B	生徒A 保護者A	進路ファイルを学校生活全般にわたって記録させる形に変えることにより効果を高めていく。	B	生徒A 保護者A	各学年で新学期当初から進路指導が進められるようにする。
		⑯ 上級学校見学・進路ガイダンス・インターンシップ(2年生)・小論文指導などの進路関連行事に意欲的に取り組んでいる生徒が70%以上である。	上級学校見学・進路ガイダンス・インターンシップ(2年生)・小論文指導等により、生徒の進路に対する興味・関心を引き出す。		B	生徒A 保護者A	進路の行事を精選し、より興味・関心が引き出せるようにする。	B	生徒A 保護者C	役立つ情報提供に心掛けるとともに、「進路のてびき」を積極的に進路学習に活用する。
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑰ 「将来の職業」や「卒業後の進路」について前向きに考えている生徒が70%以上である。	進路ファイルを活用し、進路について毎月何らかの取組を設け、実践させることにより、将来についての意欲を喚起する。		B	生徒A 保護者C	生徒の進路に対する現在の考えを家庭でも把握できるように工夫していく。	B	生徒A 保護者B	ガイダンス等を事後指導として、進路ノートにまとめさせる。
		⑱ 生徒の卒業後の進路について一度以上の話し合いをした家庭が70%以上である。	『進路のてびき』を家庭用にも配布し、生徒と保護者で進路に対する共通認識を深めてもらうよう働きかける。		B	生徒B 保護者A	家庭での話し合いの結果を、記録に残せるように、進路ノートに記入させていく。	B	生徒A 保護者A	進路希望調査、面談等で生徒の進路希望を把握する。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲ 学校の教育活動を理解してもらうため、ウェブページの更新を適宜行い、地域に対する広報活動を定期的に行っている。	ウェブページや学校通信等を利用して保護者や地域に情報を発信するとともに、常時授業公開に応じる。また、全学年で三者面談を行い、学校と家庭で情報の共有化を図る。		A	保護者A	行事後なるべく早い時期にHPを更新することで、地域への広報活動を充実させていく。	A	保護者B	さらなる広報活動を図るため、ウェブページの更新を随時行い、本校の特色がよく伝わるようにする。
		⑳ PTA関係行事への保護者の参加が40%以上である。	定期的にPTA運営委員会を開催し、現状に応じた対応策を検討していく。		A	保護者A	学校・PTA役員・保護者間の連携を図りつつ、保護者への情報発信・呼びかけを継続していく。	A	保護者A	PTA行事への参加率向上に向け、行事の点検や見直しを行う。

